

地球規模課題 学位プログラム

Bachelor's Program in Global Issues

学士(学術)

■ Bachelor of Arts and Science

■ 人材養成目的 ■

本学位プログラムは、地球規模課題全般を俯瞰する幅広い基礎知識を身に付け、人間と環境に関する課題を解決するために分野を超えて必要な情報・技術を自ら意欲的に求めていく姿勢を持ち、多くの選択肢の中から最適な解決を意思決定できる人材を養成します。

■ 求める人材 ■

地球環境(気候変動、自然破壊、公害等)、人類社会(食糧、貧困、長寿社会等)の問題に関心を持ち、文系及び理系の知識を活用しながら、将来、国内外のグローバル企業、国際機関等で社会に貢献できる、又はイノベーションに貢献できる人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約3割は筑波大学を含む国内外の大学院に進学しています。また、商社、製造業、コンサルティング、教育系の企業に就職しています。

教育の質の保証と改善の方策

運営体制

プログラム全体の活動を統括する教育会議の下に運営委員会を置き、さらに下部組織として入試委員会、カリキュラム委員会、広報委員会、学生委員会、国際連携委員会を置き、各種の課題に対応します。

教育指導体制

学位プログラムに参画する教員は、Faculty Development (FD)・Staff Development (SD) 研修会において、学位プログラムの人材養成目的、カリキュラムポリシー、教育指導法、成績評価等について意見交換・討論を行い、共通認識を持って教育に当たります。また学位プログラムに関係する教職員の協力関係の構築及び学生指導活動の一層の充実を図ります。

教育指導

授業は英語による少人数教育で行い、課題解決型学習 (Problem Based Learning) を主体とした授業を多く取り入れています。また、国際基督教大学との連携により、同大学で英語による基礎科目 (教養教育科目) を履修します。なお、学生が科目を履修するにあたっては、事前に履修モデルを提示するとともに、学生個々にきめ細かい履修指導を行います。

学生の意見反映

プログラムコーディネーターが日々学生と接しており、各学生の意見を頻繁に聴取する機会があります。課題については各種委員会等で検討のうえ、改善を図ります。

地球規模課題学位プログラム (学士) の専門分野

領域	柱となる視点	専門分野
環境	地球環境	環境学、地球科学、地理学、社会科学
	リスク・安全	社会工学、安全システム科学、総合工学
人間	社会共生	人文学、社会科学、哲学、言語学、政治学
	人の健幸	スポーツ科学、衛生学、社会医学

学士（学術）

Bachelor of Arts and Science

学位授与の方針

筑波大学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ地球規模課題学位プログラムの人材養成目的に基づき所定の年限在学し、所定の単位数を修得した者に学士（学術）の学位を授与します。学位プログラムの卒業にあつては、以下の各号に到達していることを目標とします。

■文理融合の立場から、地球規模課題を俯瞰できる幅広い知識を修得していること。

（関連するコンピテンス：基礎的知識、情報解析力、専門的知識）

■地球規模課題に関して、体系的な専門知識を身に付け、多角的な視点から総合的に分析し、創意工夫によって課題解決に取り組む能力を修得していること。

（関連するコンピテンス：基礎的知識、情報分析力、専門的知識、問題発見・解決能力）

■グローバル社会において自分自身の見解を論理的かつ説得的に主張しつつ、他者の意見にも十分耳を傾ける柔軟なコミュニケーション能力を有し、異分野・異文化の環境において積極的にリーダーシップを発揮し、社会に貢献できる能力を修得していること。

（関連するコンピテンス：論理的コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、提言力）

■グローバル社会における高い倫理観及びダイバーシティに関する理解能力を修得していること。

（関連するコンピテンス：基礎的知識、専門的知識、問題発見・解決能力）

教育課程編成・実施の方針

学士（学術）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

教育課程編成方針

地球規模課題を俯瞰するという明確な目的をもった総合的な知識を修得し、課題解決のために必要な情報を自ら収集し分析する能動的姿勢を身に付け、グローバルな交渉力とマネジメント力を培う教育課程を編成します。

総合的な方針

身近な事柄から環境と人間に関する地球規模課題に取り組む姿勢を身に付け、演習・実習を通じて課題解決に必要な専門知識と汎用スキルを学び、卒業研究あるいは長期実習により社会に貢献できる発信力のある専門研究を深めます。

順次性に関する方針

■1年次は共通科目、専門基礎科目の履修を通じ、地球環境、人類社会の幅広い基礎知識を学んでいきます。

■2年次では、基盤演習・実習の履修により、地球環境、リスクと安全、共生社会、健幸課題に関する基礎的知識・応用スキルを身に付け、グローバル化する地域社会の諸問題を分析できるようにします。

■3年次では、発展演習・実習の履修により、地球環境、リスクと安全、共生社会、健幸課題に関する専門知識・応用スキルを深め、世界の諸問題を分析できるようにします。

■ 4年次では、総合演習・実習および卒業研究または長期実習を通じて、各自が特定プロジェクトに取り組み、決断力と発信力を鍛え、卒業後のキャリアを準備します。

実施に関する方針

1年次は「地球規模課題リテラシー」の涵養により地球規模課題の共通基盤を作ります。2年次、3年次は4つの主課題の課題解決型学習 (Problem Based Learning) とオンザジョブトレーニング (On-The-Job Training) により専門知識・スキル、汎用知識・スキルを修得していきます。4年次は各自の適性を生かした専門性の高い特定プロジェクトを立て実行します。

学修成果の評価に関する方針

カリキュラムに沿った科目の単位を取得し、汎用コンピテンス並びに専門コンピテンスが身に付き、地球規模課題に取り組む学

士(学術)にふさわしい見識、俯瞰的に把握する能力、課題を解決に導く能力を有しているかを評価します。卒業研究または長期実習では、課題の発見力、課題解決能力、研究または実務実施能力などを評価し、卒業研究発表会においてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、質問に対応する能力などを確認し、汎用・専門コンピテンスが養われているか総合的に評価します。

特色

本プログラムは、すべて英語で課題解決型学習 (Problem Based Learning) を実施します。専門科目は全学群から幅広く履修ができます。また、国際基督教大学との連携により、同大学において英語による基礎科目(教養科目)を履修します。

カリキュラムの構成

